

地域での支え合い

『災害時の避難行動要支援者
支援の取り組み』

菊水1条1丁目町内会

会長 佐藤 義博

菊水1条1丁目町内会の概要 ①

- 町内会は、昭和29年に発足しました。
- 都心部に近く、豊平川の豊平橋と一条橋の右岸側に面した地域にある町内会です。
- 昭和51年に地下鉄が開通し、賃貸マンションが増える一方で、古くから住んでいる方が転出して戸建住宅が年々減少しています。
- 近隣には、商業施設や医療機関もあり、住環境にも恵まれた地区ですが、基幹避難所まで約2Kと離れています。

菊水1条1丁目町内会の概要 ②

- 世帯数 610世帯 人口 794人 (令和元年11月1日)
- 加入率 71.5%
- 65歳以上の高齢化比率 16.9%
(高齢化比率は、年々減少傾向にある)
- 15歳以下の年少者人口比率 3.9%
(年少者比率は、近年横ばい)
- 人口は、生産人口層の転入で増えています。

菊水1条1丁目町内会の重点活動

- ・ スローガン
「誰もが安心・安全に暮らし続けられる地域作り」
- ・ 重点活動
 - ①地域での支え合い活動（避難行動要支援者）
 - ②災害に備え、地域での共助活動（避難所の体制確立・防災備品の備蓄・支援員の確保）
 - ③地域の環境衛生の取組み（ゴミステーションを歩道から撤去し私有地に移設、町内会管理の街路灯の再配備、地域美化活動）
 - ④町内活動の見える化（活動内容を回覧版が回らない住民に対して、MSの掲示版の活用、SNSの活用）
 - ⑤町内会役員の成り手育成（学生・若手社会人の取り込み）

避難行動要支援者名簿取得の経緯

- ・平成27年から、高齢者の見守り活動の検討を始め、65歳以上高齢者名簿・65歳以上世帯名簿の活用を検討したが、地域の事情（賃貸MSが多い・個人情報等）でなかなか取り組めないでいました。
- ・平成29年に、地域にホテルが建設される事になり、基幹避難所から遠いので、施行主と協議し町内会の避難場所としての協定を締結しました。
- ・平成30年8月に、支え合い活動の一環として「避難行動要支援者の名簿」を申請し、平成30年11月に取得しました。（令和元年5月に継続取得）

避難行動要支援者名簿取得後の取組み ①

○個別面談を実施 12名

名簿提供後に、事前に連絡を入れ役員二人で訪問し、避難行動要支援者名簿の内容確認と個別台帳の作成の為の聞き取り調査を実施。5名が辞退7名分を作成（令和元年度）

辞退理由は、本人が施設に入居、同居者がいるとの理由で1～2割ほど（菊水地区）

面談時の様子

- ・話は良く聞いてくれます。
- ・本人も自身の状況を詳しく説明してくれます。



避難行動要支援者名簿取得後の取組み ②

○取組みの案内文

①支援内容

- ・ 伝達・避難支援・避難所での支援、安否確認等

②避難場所

- ・ ホテルポットマム
- ・ 避難マップは見える所
- ・ 防災用品の備蓄状況説明

③町内会専用電話番号

④避難訓練の参加確認

* 親族に②・③は伝える様をお願い

* 皆が被災者になるが、必ず連絡、支援する旨を伝えています

様

令和元年5月吉日
菊水1条1丁目町内会
会長 佐藤 義博

「災害時の支え合いの取組みについてご案内」

災害時の地域での支えあい活動の一環として、札幌市に避難行動要支援者の名簿情報を申請し、ご同意を頂きました方の名簿を取得いたしましたので、当町内会では、下記の内容で取組みをさせていただきます。

記

(1) 支援内容（被災状況により支援できない場合もあります）

- ①災害発生時の恐れが有るときの情報伝達
- ②災害時の安否確認
- ③避難所への避難のお手伝い
- ④避難所での支援
状況を見て、基幹避難所 又は、福祉避難所に移動して頂きます。

配布した避難マップに、必要な事を記入して、見える場所に
掲示しておいてください。

(2) 避難場所（町内会と協定している避難場所です）
「ホテル ポット マム」
住所 菊水1条1丁目3番17号 電話番号826-4500
防災用品は、町内会で最小限必要な物を備蓄中です。

親族や兄弟に、災害時に避難している場所を、日頃から伝えて置いてください。

(3) 町内会専用連絡先（ご不明点があれば、下記までご連絡ください）
090-6442-6060 町内会役員が対応いたします。

(4) 避難訓練の実施（当日は、懇親を兼ねて敬老の祝い会にも出席して頂きます。）
令和元年8月25日（日）午前11時～14時頃の参加の有・無をお聞かせください。

以上

避難行動要支援者名簿取得後の取組み ③

○個人台帳を作成（○箇所は毎年 聞き取り更新）

避難行動要支援者個別避難計画台帳(避難誘導場所 ホテルポットマム)					令和元年 5月10日面談	
本人氏名	〇〇	〇〇	マルマル	マルマル	男性	
住 所	白石区菊水1条1丁目00-00					
生年月日	昭和22年9月1日			74歳		
連絡先	000-0000-0000					
同居者氏名	なし					
同居者氏名						
同居者連絡先						
[避難時に配慮が必要な理由 要介護・障がい等]						
<input checked="" type="checkbox"/> 立つことや歩くことが難しい						
<input type="checkbox"/> 音が聞こえない(聞きとりづらい)						
<input type="checkbox"/> 物が見えない(見えにくい)						
<input type="checkbox"/> 顔を見ても知人や家族とわからない時がある						
<input type="checkbox"/> その他						
<input checked="" type="checkbox"/> ヘルパー 週3回 施設名 □□ □□						
<input type="checkbox"/> デイサービス 週 回 施設名						
[情報伝達・避難時留意事項] 視覚・聴覚障がい等						
電話での連絡 (可)・不可 (訪問して筆記メモで伝達)						
避難時の支援者数 1人・2人・(3人)・3人以上						
避難時車いす使用 (有)・無 車いす (有)・無						
					緊急連絡先	
氏 名					〇〇	〇〇
住 所					西区〇〇条〇〇丁目0-0	
連絡先					000-0000	
避難勧告時電話連絡者						
支援者						
氏 名					〇〇	〇〇
住 所					白石区菊水1条1丁目00-00	
連絡先					町内会専用電話000-0000-0000	
避難勧告時誘導支援者						
支援者						
氏 名					〇〇	〇〇
住 所					白石区菊水1条1丁目00-00	
連絡先					000-0000	
[特記事項]						
避難訓練の参加 (有)・無						
戸建住宅で1人で生活しているが、週2・3回は娘さんが訪問している。						

地域での支え合いスキルアップ研修会を開催

- ①平成30年度は、ワン・オールにお願いして、障害をお持ちの方をお招きし、講習会を連合町内会で開催
- ②令和元年度は、社協にお願いして、避難行動要支援者に対する活動の意義についての研修会を福まちで開催
- ③令和2年2月16日に、ワン・オールにお願いして、地域支援員のスキルアップを目的に障害をお持ちの方の実技と講習を福まちで開催予定
- ④令和2年3月14日に、ホップ障害者地域生活支援センターにお願いして、みんなの災害対策講座を町内会として開催を予定



避難所の確保と防災備品の備蓄（H30・9・6胆振東部地震）

基幹避難所までの距離は約2Kと遠い地域の為

①避難所確保

平成29年に、地域内のホテルと避難所利用の協定を締結。（3階建 60ベッド・飲食施設・懇談スペース）
令和2年秋に別館建設予定（5階建て60ベッド）

②防災備品の備蓄（100名×3日分＝約250万円）

○町内会（令和元年～令和3年の3年計画）

防災倉庫・発電機・照明器具・給水袋・非常用トイレ・カセットコンロ等17品目（非常食は最終年度に購入）

○ホテル（平成30年備蓄）

ポータブルストーブ5台・灯油・毛布

避難訓練の開催 ①

避難訓練を実施（令和元年8月25日）

- ①参加者 要支援者7名
（車椅子2名・弱視等1名・要介護4名）
- ②支援員 役員・民生委員・サポーターの12名
- ③内容
 - ・午前11時に地震発生を担当者が電話で連絡（1名連絡取れず）
 - ・支援員が避難所に集合して役割を再確認
 - ・3班体制（1名～3名）で避難所まで誘導
 - ・避難所での安否確認。
（7名の避難完了までの時間は35分）
 - ・アンケート実施、懇親会

避難訓練の開催 ②

アンケート調査集計（一部抜粋）

- ①基幹避難場所を知っていますか。
知っている50%・知らない50%
- ②町内会指定避難所を知っていますか。
知っている83%・知らない17%
- ③避難訓練に参加して良かったですか。
良かった50%・ふつう50%・不満0%
- ④災害の時に役にたつと思いますか。
思う83%・分からない17%・思わない0%
- ⑤一番心配な災害は
地震67%・水害33%・風害・雪害・火災0%
- ⑥避難勧告が出たら、あなたは避難したいと思いますか。
率先して17%・催促されれば66%・したくない17%

避難訓練の開催 ③

避難訓練での課題

- もしもの時に、今回の様に上手く行くのか？（避難連絡・高層階からの避難）
- 防災マップ・取組みの案内文を配布しているが、弱視の方には役にたっていない。
- 冬場の（車椅子利用者）避難支援の検討。
- 避難所運営体制見直し（要員配置・防災備品）
- 支援員のスキルアップと増員の必要性等。

両者で感じた不安要素を払拭するには研修会・避難訓練を継続して実施する必要性を実感。

高校生の青年部長



今後の課題と対応

- ① 支援員のスキルアップとサポーター登録制の確立
 - ・ 定期的な研修会・避難訓練の実施とサポーター確保の為の情報発信、協力依頼。
- ② 避難行動要支援者名簿以外の支援を必要とする方の取り込み
 - ・ 手上げ方式での案内文書を配布したが、反応が薄く、今後も根気強く情報発信を継続。
- ③ 連合町内会との災害時の連絡網・支援体制の確立
 - ・ 連合町内会内（3ヶ所避難所利用協定を締結）と避難所間の連絡網と支援体制を現在協議中。

行政への要望・要請

①避難行動要支援者登録名簿全員の提供

- ・同意者だけでなく、全員の情報を提供してほしい。
不同意者の、個別台帳は作成しないが安否確認で使用。

②行政との連絡網と支援体制

- ・私設避難所扱いであり、福祉避難所への移動の連絡・支援内容について、各部署と協議したが明確な返答がない。行政の縦割り組織の弊害。

③防災備品購入資金の援助他

- ・防災備品を購入する事にしたが、収入の約3年分と財政面では厳しい状況なので、補助金支給（現物支給）の検討お願いしたい。又、防災庫設置基準の緩和。

町内会の取り組みも、第一歩を歩みだしたばかりで、多くの課題を抱えています。

今後、地域住民の理解と協力を得ながら取り組んでまいります。

ご清聴ありがとうございました。